



安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	EPDM系スポンジ
製品名	タフロングES
供給者の会社情報	岡安ゴム株式会社 〒 滋賀県草津市山寺町271番1号 TEL : 077-562-7271, FAX : 077-562-7289
担当部門	開発課

2. 危険有害性の要約

GHS分類	世界調和システム(GHS)による危険物質または混合物ではない
-------	--------------------------------

3. 組成及び成分情報

化学物質か、又は混合物か	混合物(成型品)
--------------	----------

化学名、慣用名、別名など	CAS 番号	濃度範囲(重量%)
EPDM	-	主成分
カーボンブラック	1333-86-4	10~20
鋳物油	-	15~25
酸化亜鉛	1314-13-2	1~3
酸化カルシウム	1305-78-8	1~3

※主成分であるEPDM以外は、労働安全衛生法施行令別表第9によって規定された通知義務対象物質のみ表記しています。また、正確な組成の百分率は企業秘密として公表していません。

4. 応急措置

目に入った場合	清浄な水で最低15分間目を洗浄した後、必要に応じて医師の診察を受ける
皮膚に付着した場合	皮膚の炎症やアレルギー性反応が起きた場合は直ちに清浄な水で洗浄した後、医師の治療を受ける
吸入した場合	固形物の為、一般的に吸引する可能性なし
飲み込んだ場合	無理に吐き出させず医師の診断を受ける
医師に対する特別な注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	粉末消火器、泡消火器、二酸化炭素消火器等
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の特別な危険有害性	燃焼の熱分解、不完全燃焼により黒煙、一酸化炭素、窒素酸化物、その他のガスが発生する可能性がある
特定の消化方法	消火活動は風上から行う
消火を行う者の保護	必要に応じて呼吸保護具といった適切な保護具を着用する

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	漏出の可能性がない為、特になし
環境に対する注意事項	漏出の可能性がない為、特になし
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏出の可能性がない為、特になし

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】	
技術的対策	特になし
特別な注意事項	特になし
接触回避	銅など一部の金属と接触すると、金属を変色させる可能性があるため注意する
【保管】	
技術的対策	特になし
混触禁止物質	情報なし
保管条件	直射日光、高温多湿を避け、重量物を上に積載しないようにして保管する また、指定可燃物として消防法に定められた通り保管する
安全な容器包装材料	情報なし。当社出荷時の包装形態を推奨

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度	未設定
設備対策	特に必要ない
個人用保護具	特に必要ない

9. 物理的および化学的特性

外観	黒色、固体
臭い(臭いの閾値)	特になし
引火点	情報なし
比重(相対密度)	0.05~0.20 g/cm ³
自然発火温度	現在のところ知見なし

10. 安定性および反応性

反応性	通常の保管取扱い条件においてなし
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	情報なし
危険有害性のある分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性 又は刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性、単回ばく露	情報なし
特定標的臓器毒性、反復ばく露	情報なし
吸引性呼吸器有害性	情報なし

12. 環境影響情報

残留性と分解性	情報なし
生物濃縮性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	国、都道府県並びに地方自治体の法規及び条例に基づいて廃棄する または、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託して処理する
汚染容器及び包装	国、都道府県並びに地方自治体の法規及び条例に基づいて廃棄する または、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託して処理する

14. 輸送上の注意

国際規制	非該当
日本国内での規制	非該当

15. 適用法令

消防法	指定可燃物(合成樹脂類：その他のもの)
労働安全衛生法	通知義務対象物質は第3項(組成及び成分情報)に表記
REACH 7条 33条 SVHC届出	非該当

16. その他の情報

- ・記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険、有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません
- ・注意事項は通常取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい

安全データシート (SDS)

作成 初版 2008年07月03日

改訂 2版 2018年09月18日

整理番号：Y010

1. 製品及び会社情報

製品名 ウルトラポリマーフィルム・シート (UHMWPE)

会社名 淀川ヒューテック株式会社

住 所 吹田市江坂町2丁目4-8

担当部門 営業本部

担当者 担当営業課

電話番号 06-6386-2211(代)

FAX番号 06-6386-5056

2. 危険有害性の要約

- ・ GHS 分類 : 分類基準に該当しない
- ・ GHS 分類区分は付与されないが取扱い時には以下の点に注意する。
- ・ 注意書き : 安全対策
 - 取扱い後は手および顔をよく洗うこと。
 - 環境への放出を避けること。
- : 応急処置
 - 飲み込んだ入り、吸入又は接触したか、又はばく露の懸念がある場合、気分が悪いときは医師の手当てを受けること。
- : 廃棄
 - 内容物及び容器を廃棄する場合は、該当法規に従い、都道府県知事に許可された産業廃棄物処理業者に委託すること。
 - 使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適正に廃棄すること。
- ・ GHS 分類に該当しない他の危険有害性
 - : 粉じん爆発のおそれがある。
 - : 粉じんは、眼、皮膚、気道を刺激するおそれがある。

3. 組成、成分情報

- ・ 単一製品・混合物の区別 : 単一製品
- ・ 化学名 : ポリエチレン
- ・ 含有量 : 99%以上
- ・ 化学式又は構造式 : $-(CH_2-CH_2)_n-$
- ・ 官報公示整理番号 : (6)-1

- ・CAS No. : 9002-88-4
- ・労働安全衛生法 : 既存
- ・危険有害成分 : 該当しない。
- ・使用禁止環境負荷物質(カドミウム、鉛、水銀、六価クロム、PBB、PBDE)は、意図的には使用していない。

4. 応急措置

- ・吸入した場合 : 異常を感じたり、気分が悪くなった場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移動する。
高温の溶融樹脂から発生するガスを多量に吸収した場合は、空気の新鮮な場所に移る。
症状変化が現れた場合には、直ちに医師の手当てを受ける。
- ・皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぐ。
付着した粉じんを拭き取り、水又は微温湯で洗い流しながら石鹸を使って良く洗い落とす。
外観に変化が見られたり痛みが続く場合には、速やかに医師の手当てを受ける
- ・眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で洗浄する。
洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄する。
コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。
異物感が眼に残るようであれば、速やかに眼科医の手当てを受ける。
- ・飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないこと。
意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。
口を水ですすぐ。
保温して速やかに医師の手当てを受ける。
- ・応急措置をする者の保護 : 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具、安全靴などの保護具を着用すること。
- ・医師に対する特別な注意事項 : 症状に応じた治療を行う。

5. 火災時の措置

- ・消火剤 : 棒状水、霧状水、泡消化剤、粉末消火剤、二酸化炭素(CO₂)
- ・消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、状況に応じた保護具(自給式呼吸器、防火服、防災面など)を必ず着用する。
- ・詳細情報 : 付近の発火源となるものを取り除く。
火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止する。
移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
容器、周囲の設備などに散水して冷却する。
消火活動は可能な限り風上から行う。

6. 漏出時の措置

- ・ 人体に対する注意事項 : 作業の際は適切な保護具を着用し、接触及び粉じんの吸収を避ける。
この製品や粉じんがこぼれた場所は、滑りやすいので注意する。
- ・ 環境に対する注意事項 : 環境への影響を起こさないよう、河川などに排出しない。
- ・ 除去方法 : 火花を発生しない安全な用具を使用する。
漏出したものをすくいとり、又は掃き集めて紙袋又はドラムなどに回収する。
溶解状態で漏出した時は、水等で冷却し、固化した後処理を行う。
- ・ 二次災害の防止策 : 火花を発生しない安全な工具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- ・ 取扱い
 - 技術的対策 : 8項の「設備対策」を参照する。
粉じんの吸入、皮膚への接触を防ぎ、又、目に入らないように適切な保護具を着用する。
加工等の取扱い場所の近くには、手洗い、洗眼などの設備を設け、取扱場所は寒気をよくし、その周辺での火気、スパーク、高温物の使用は禁止する。
電気機器類は防爆構造の物を用い、静電気対策を行う。
吸収、皮膚への接触を防ぎ、又、目に入らないように適切な保護具を着用する。
取扱い場所の近くには、手洗い、洗眼などの設備を設け、取扱い後に、手、顔などをよく洗う。
 - 安全取扱注意事項 : 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
みだりに粉じんを発散させない。
発散した粉じんを吸い込まないようにする。
 - 接触回避 : 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。
法令等により規定された基準に従って保管する。
- ・ 保管
 - 安全な保管条件 : 直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて保管する。
換気の良い暗所に保管する。
防湿に留意する。
屋内貯蔵を原則とする。
混触禁止物質：強酸化剤、強酸、フッ素
 - 安全な容器包装材料 : 段ボール箱、紙管。

8. ばく露防止及び保護措置

- ・ 設備対策 : 加工等で粉じんが発生する場合には全体換気装置を設置する。
密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・ 管理濃度 : 未設定。
- ・ 許容濃度 : ・ 日本産業衛生学会 (TWA) (2014 年度版) 第3種粉じん
 - : 総粉じん 8mg/m³
 - 吸入性粉じん 2mg/m³

・ACGIH[2014]

:呼吸性粉じん 3mg/m³吸入性粉じん 10mg/m³

・保護具

- 呼吸器の保護具 : 防じんマスク
- 手の保護具 : 保護手袋
- 目の保護具 : 保護眼鏡、ゴーグル
- 皮膚及び身体の保護具 : 安全帽、保護長靴、保護服

9. 物理的及び化学的性質

- ・外観 物理的状态 : 固体
- 色 : 白色
- 臭い : ポリオレフィン臭
- ・pH : 非該当
- ・物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲
- 融点 : 136°C
- ・引火点 : >200°C
- ・爆発特性
- 爆発限界 : 下限:30g/m³ (粒径:150~200μm)¹⁾
- 限界酸素濃度 : 16% (粒径:150~200μm)¹⁾
- ・密度(比重) : 0.93-0.95
- ・溶解性 : 水に不溶

10. 安全性及び反応性

- ・反応性 : 知見なし
- ・化学的安定性 : 通常の手扱い状態において安定。
- ・避けるべき条件 : 過熱
- ・混触危険物質 : 強酸化剤、強酸、フッ素
- ・危険有害な分解生成物 : 知見なし
- ・危険有害反応可能性 : 粉じん及び加工時に発生する低分子量物質は、静電気により着火、爆発を引き起こす可能性がある。

11. 有害性情報

- ・急性経口毒性 : 区分外
- ・急性経皮毒性 : 区分外
- ・急性吸入毒性 : 分類できない
- ・皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 分類できない
- ・眼に対する重篤な損傷性 : 分類できない
- 又は眼刺激性
- ・感作性 : 呼吸器感作性 : 分類できない
- 皮膚感作性 : 分類できない

- ・生殖細胞変異原性 : 分類できない
- ・発がん性 : 分類できない
- ・生殖毒性 : 分類できない
- ・特定標的臓器毒性 : 分類できない
(単回ばく露)
- ・特定標的臓器毒性 : 分類できない
(反復ばく露)

12. 環境影響情報

- ・生態毒性
 - 急性毒性
 - 水性環境有害性(急性) : 区分外
 - 長期間毒性
 - 水性環境有害性(長期間) : 分類できない
- ・生体蓄積性
 - n-オクタール/水分配係数 : 知見なし
- ・その他の有害影響
 - オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

- ・残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
認可された廃棄物処理施設で廃棄物を処理する。
廃棄処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。
- ・汚染容器・包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

- ・国連分類 : 国連定義の危険物に該当しない。
- ・輸送の特定の安全対策及び条件 : 容器の破損、漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
輸送中は雨水が洩れこまないように気を付ける。
直射日光を避ける。

15. 適用法令

- ・消防法 : 第9条の4 政令別表第4 指定可燃物（合成樹脂類）
(その他の物 : 3000kg)
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 産業廃棄物(廃プラスチック類)

16. その他の情報

- ・記載内容について : 記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取扱いには注意して下さい。なお、注意事項等については通常の実用を前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には、さらに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

【引用文献】

- 1) ポリエチレン原料メーカーSDS
- 2) RTECS : Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (NIOSH, 2001)

以 上